

岩 国 民 報

日本共産党
岩国市議員

岩国市山手町
4丁目3-5

電 話
22-2245
F Z X
24-2735

空母艦載機移駐で広がる不安 住民の不安に真剣に向き合え

小川安士議員の一般質問

小川議員は、基地問題に関して、基地外に居住する米軍人等の管理を、岩国の実態に即して強化することや、騒音の実態調査を本格的に行う事を求めました。

騒音苦情件数は、沖合移設前より、今の方が多く、騒音の実態は悪化しています。

米軍機の運用そのものに、規制をかける必要性を指摘し、騒音コンタマーも、飛行実態に即して作成するよう求めました。



めましました。

騒音コンタマーは実情に基づくべきだ

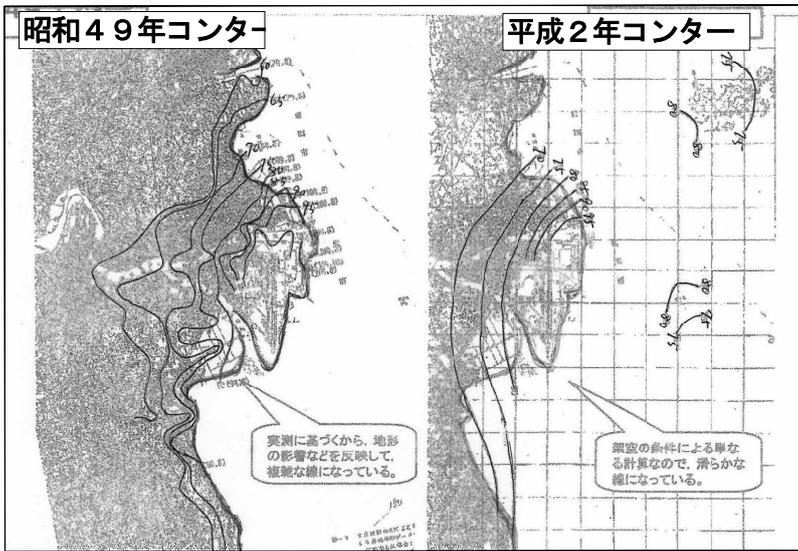
これまでのコンタマーは、米軍の提出資料に従って作成されているが、実際にはそのコースを飛んでおらず、実際の飛行コースに従って作成するよう求めました。

また、現在の騒音測定点(19カ所)は、ほとんどが滑走路延長線付近なので、滑走路

両端から横方向に3キロ離れた位置への、固定測定器設置を求めました。

本格的な調査で市民の疑念を晴らせ

小川議員は、艦載機の移駐後は本格的な調査を行うよう求め、執行部は、国が住宅防音工事の第1種区域の調



道路や橋の整備は万全か

岩国市公共施設白書や「公共施設等総合管理計画」をみると、建物は統廃合されて、各地で利便性が悪化し、周辺部で人口減少が加速すると思われます。

また、道路や橋などは財源不足で手入れが遅れ、市内全域での環境悪化が心配されます。

小川議員は、道路や橋の整備を、どのように進めるのか質しました。

執行部は、道路や橋、下水道などは、「長寿命化計画に基づき、計画的に点検・修繕・更新を行う」と応えました。



新たな玖珂縮関連製品の開発も、検討する方向性も示しました。

また、昨年策定した「岩国ブランド推進基本方針」に基づき、魅力を磨き上げてブランド化を図りたいと応えました。

小川議員は、「国の調査要領では、作業方法の原則を定めており、固定的に決められてい

小川議員は、「国の調査要領では、作業方法の原則を定めており、固定的に決められてい

また、昨年策定した「岩国ブランド推進基本方針」に基づき、魅力を磨き上げてブランド化を図りたいと応えました。

このコンタマーでは、同じw値の線が内陸部に引かれて騒音区域が大幅に広がり、住民の騒音実感と近いと思われ

人口減少対策の要は、若い人達が地元で暮らせる仕事、残りたくな

執行部は、玖珂町商工会で復興させ、今も「玖珂縮の会」が取組んでおり、収益の上がる事業に発展すれば、「生業づくり」に貢献

岩国縮を再評価し、経済振興に活かせ

ちぢみ

人口減少対策の要は、若い人達が地元で暮らせる仕事、残りたくな

織られており、市の特産としてスケール大きく扱うよう求めました。

「だ」と重ねて求めました。

「いわくにバス」 しやすいバスに を利用

潮風ビーチの改修と日除け場所の確保を

由宇町にある潮風公園は「カープビーチ」との看板もかけられ、今年も4万人もの海水浴客でにぎわいを見せました。ただ、オーブから12年目を迎えた施設やビーチは老朽化し、いたみが目立ってきています。

昨年、砂浜の陥没に続き、今年は「砂浜の形状が変わり、護岸階段や施設の回廊からは、泳いでいる子供の姿が見えず危険だ」との声がよせられています。

実際、私も現地を見ましたが、砂が盛り上がり、急に深くなっていきます。階段も何段か砂で隠れている状況です。人口浜で、台風の影響も受けやすいのかもしれないませんが、早急に

市当局は「砂浜が偏り見通しが悪くなっている。砂浜の形状は2

3m変化している。海水浴客の安全を確保するためにも、早急に県に要望し、調査も含め協議したい」「施設の安全点検は、県の港湾管理事務所と総合支所、有限会社潮風が合同で行う。指摘された箇所については、管理を徹底するよう指導していく」と答弁しました。



坪田恵子議員の一般質問



市民からバスに対しての苦情が寄せられています。いくつか紹介しますと

■乗車中、警報音が鳴り、しばらく走って全員降ろされた。降りるとバスから緑色の水が流れ出ていた。

■広島バスセンターで待っていると「バスが遅れています」とのアナウンス。3月でまだ寒く、いつ到着するかわからないので交代でトイレに行き、走り戻ったにもかかわらず、30分ほど遅れたバスは、待つことなく発車した。怒りが収まらずバス会社に電話した。対応が悪い。

■バス停で待っていたのに、止まってくれなかった、など多くの市民は不満を募らせています。

■苦情は市にも寄せられているのではないかと、苦情はどのように対応されているのか、バス会社に対し、その報告をし改善を求めているのかを質問。

「いわくにバス」をはじめ、これからの公共交通は、福祉の観点で整備していくことを求めました。

■答弁は、「いわくにバスに対する市民からの苦情は、運転士の接遇など7件寄せられている」「公共交通の責務は『市民の皆様が安心して利用でき、安全第1としたバスサービスの提供だ』と考える。しかし、運転士が不足している状況が続き、確保に努めている。また運転士の研修などにより、接遇改善も図っ

小中学校の特別教室に エアコンの設置を

市内全小中学校の普通教室へのエアコン設置は今年度で終了し、「涼しくなり、前より勉強がはかどります。冬も寒いので使ってほしい」と、玖西の中学校男子の声など、子ども達や先生方から喜びの声が聞かれます。

しかし、各学校の特別教室にはエアコンはなく、週3回利用する理科室や音楽室、美術室などは夏場は暑いまままで授業している状況です。部活動でも利用していません。PTAや先生方からも、特別教室の設置要望が出されています。

今後、市は特別教室

教育長は、「特別教室への整備は今後の課題。整備困難の理由として、普通教室の設置は防衛省の交付金でおこなえたが、特別教室は交付金の対象になっていない。今後、受変電設備の要領などを考え、各学校の空調設備の設置要望も踏まえ、十分な現地調査を行い、設置の可否を検討したい」と答弁しました。



市議会議員の定数削減に反対！

坪田恵子議員の反対討論より

市町村合併後11年が経過しました。それぞれの地域を代表する議員数は合併前100人を超えていましたが、合併を機に大幅削減となりました。

例えば私の住む由宇町は16人だった議員数だが、現在では3人と5分の1に減りました。

しかし、どうでしょう、現在各地域では、高齢化や少子化が加速し、これまでになかった生活面での市民からの問題や要望が数多く寄せられています。

それに対し、現在の議員数を保つことが精一杯だと思われないのでしょうか。これ以上に議員定数が削減されれば、弱者の声、少数意見をどのように議会に反映するのでしょうか。また、私たちの頭上は米軍機の爆音が増し、不安や不満の声がこの1週間だけでも数多く寄せられています。

本当に困っている市民の要望に耳を傾け、それを議会に届けるには、これ以上の定数削減は許されません。

よって、生活の向上を願う市民の代表として、反対の意見とします。

た。